

平成30年度 民間技術発表会(第1回)を開催しました

平成30年7月23日(月)、東北地方整備局港湾空港部 会議室をメイン会場(聴講者約70名)として、管内港湾空港関係事務所へ映像配信を行い、民間技術発表会(第1回)を開催しました。

民間技術発表会は、平成16年度から民間の方々が開発された新技術等を東北の港湾・空港整備に有効活用することを目的に、職員と民間事業者の方との意見交換の場として開催しています。今回は5つの技術が発表されました。

- | | |
|-------------------------------------|------------------------|
| 1) SLJ スラブ | 【オリエンタル白石株式会社】 |
| 2) CPG 工法 | 【静的圧入締固め工法(CPG 工法)研究会】 |
| 3) 次世代浚渫システム「TOP SYSTEM-Auto」 | 【東洋建設株式会社】 |
| 4) 水中3Dスキャナーによる水中可視化システム「i-UVS」 | 【いであ株式会社】 |
| 5) 拡張現実(AR)を用いた水中可視化システム「Beluga-AR」 | 【東亜建設工業株式会社】 |

本発表会を通し、各社の新技術の取り組みを理解することができたとともに、活発な意見交換ができました。今回発表されました技術が、公共工事等において幅広く有効活用されることを期待しております。



民間技術発表会開催状況

H30年度 第1回民間技術発表会(PAT) 発表技術一覧

	発表技術	発表者	技術概要
1	SLJスラブ	オリエンタル白石株式会社	『SLJスラブ(Short Lapped Joint)』は、プレキャスト床版の接合部にエンドバンド鉄筋を用いることで、従来のループ継手や重ね継手を有するプレキャスト床版に比較し、施工性が優れるとともに、継手長の短縮や床版厚の低減を図ることができる。
2	CPG工法	静的圧入締固め工法(CPG工法)研究会	CPG工法は、密度増大工法に分類される液状化対策工法である。従来、既設構造物に対する液状化対策は、その既設構造物自体が施工の障害となるため、対策が困難とされてきた。しかし、本工法を用いることにより、供用中の施設に対しても対策が可能となり、耐震化を図ることができる。
3	次世代浚渫システム『TOP SYSTEM-Auto』	東洋建設株式会社	従来、ポンプ浚渫ではオペレータに非常に多くの負担をかけ作業をしていた。しかし、本システムを用いることで深度を自動調整しながら浚渫し、出来形についても『見える化』を行ったことで、オペレーターの負担を軽減し技量によらない高精度な浚渫作業を可能とした技術。
4	水中3Dスキャナーによる水中可視化システム『i-UVS』	いであ株式会社	本技術は水中3Dスキャナー(音響機器)を用いた水中構造物、底面形状計測システムで、従来は潜水土による目視点検で対応していた。本技術を活用する事により、濁水中や水深40m以深でも形状確認可能となり、点群データ密度が高密度であるため、工期短縮、コスト削減、品質の向上が図れる。
5	拡張現実(AR)を用いた水中可視化システム『Beluga-AR』	東亜建設工業株式会社	本システムは拡張現実の技術を応用し、3Dソナーの計測データと3Dの設計図面等を重ね合わせて投影することで、水中部をリアルタイムに可視化するシステムである。従来の潜水土の誘導に比べて、水中でのブロック据付誘導が容易になるため、生産性の向上が期待できる。